

28年度県当初予算 7216億3800万円

「ぐんま創生予算」大沢知事

平成28年群馬県議会第一回定例会は3月22日に閉会、県が示した総額7216億3800万円の28年度一般会計当初予算案などを議決しました。27年度当初と比べ56億円(0.8%)増で、大沢正明知事の下で過去最大。知事は「人口減少社会でも県民が豊かに暮らせる社会づくりに向け『ぐんま創生予算』を編成した」と述べ、県民生活の質向上に配慮しています。

予算の歳入は、好調な企業業績を反映して県税収入が前年度比5.5%増の2490億円を見込みました。歳出は、社会保障関連費が高齢化に伴い2.8%増の922億円と過去最大。借入に頼らず政策経費を賄っているを示すプライマリーバランスは臨時財政対策債を除く算定で16年連続、臨時債を含めても3年連続の黒字を維持しています。

**公共事業費は5.2%増
補正と合わせ920億円**

公共事業費は836億円を計上、直前の平成27年度2月補正84億円と合わせ920億円を確保しました。当初予算と補正を合わせた金額ベースで前年比5.2%増。

県が国に代わって道路用地を確保するため特別会計(20億円)も活用します。西毛広域幹線道路も重点整備します。

止するため治水対策に58億220万円、土砂災害対策に48億4306万円を計上しました。本体工事が進んでいる八ッ場ダム関連は6億1702万円を計上しています。

県単事業は、県土整備部関連が200億円、環境森



自民党県議団は昨年10月、イタリア・ミラノを訪れ、群馬の農畜産物をPRしました(写真上)。ふるさとの発展に「海外は重要」との判断からです。新年度の予算編成も、海外からの誘客、農畜産物の輸出の推進を強く要望しました(写真下)

万円を付け、東毛広域幹線道路の玉村伊勢崎バイパス4車線化や国道17号上武道路の全線開通を予定しています。上信自動車道渋川西バイパス整備に向け、

豪雨や台風などによる災害を防

た予算額になっています。

その他の主な事業&予算

前橋赤十字病院建設事業費補助	13億6258万3000円
コンベンション施設整備推進	18億6041万4000円
林業・木材産業振興	7億4539万6000円
ぐんまの木で家づくり支援	3億3590万円
文化財保存事業費補助(世界遺産関連)	2億1326万円
競技力向上対策	2億円
交番・駐在所整備	1億3460万円

TPP対策の主な予算

【農林業分野】50億4340万9000円	
農業構造改善対策	10億8442万4000円
担い手への農地集積・集約化	5億7031万8000円
農業者育成対策	2億6199万1000円
「野菜王国・ぐんま」総合対策	1億4700万円
農業競争力強化基盤整備	13億1270万8000円
農畜産物等輸出促進	4537万7000円
畜産競争力強化整備(新規)	6億5100万円
小規模農村整備	6億6000万円
【商工業分野】4609万2000円	
中小企業支援センターの設置	2558万5000円
【国際戦略】2496万9000円	

県立館林特別支援学校増改築始まる

館林特別支援学校は増改築工事に着手します。教室不足や老朽化への対応で、新校舎の使用は平成29年9月を予定しています。県は本年度予算に2億7300万円計上。本体工事費1億8400万円余りと仮設校舎の経費約8800万円余りです。

館林の支援学校は市内だけでなく邑楽郡からの利用者も多く、県に移管されてからの入学者増に対応するため施設整備を求め、要望が上がっていました。

県立高エアコン設置へ

県立高等学校の学習環境の改善



キュウリ日本一へ 館林産地が新技術に期待

群馬県は出荷量で、キュウリと路地ナス(夏秋ナス)がそれぞれ全国2位です。中でも、館林・邑楽地域は県内有数のキュウリ産地です。県農業技術センターは本年度から「野菜王国ぐんま・活力ある野菜産地の実現プロジェクト研究」としてキュウリ収量を従来の1.5倍にする技術の確立を進めています。自民党農政連事務局長須藤和臣は「地方創生の足掛かりとしたい」と地元農業の発展を支援しています。

TPP対策に51億円

環太平洋経済連携協定(TPP)の発効に備え、農林業、商工業、国際戦略などに51億1400万円余りを計上しました。県の試算は、TPP発効の県内農業への影響が生産額で24億8000万、47億4000万円の減少を見込んでいます。牛肉、豚肉への影響が大きく、競争力強化を目指す新規事業を立ち上げるほか、海外展開など需要開拓の支援に取り組みます。